

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 740 号 令和5年1月



## 謹 賀 新 年

### 新 年 の ご 挨拶

会長 田 中 尚 秋

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方をはじめ関係各位におかれましては、ご清栄にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の諸事業の運営及びその推進に格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、本会にとりまして10年に一度の大事業であります中国地区獣医師大会並びに5年ぶりの開催となった獣医学術中国地区学会を9月3日(土)～4日(日)山口グランドホテルを会場として担当主催で開催し、盛会裏に終了することができました。心から深く感謝申し上げます。また、11月11日(金)～13日(日)には(公社)日本獣医師会(以下「日獣」)主催の第21回アジア獣医師会連合(FAVA)大会並びに第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会(令和4年度)が、福岡県のヒルトン福岡シーホークで開催されました。“アジアからのOne Healthアプローチ”を大会テーマとしてワンヘルスに係る様々な取り組みが紹介されました。本会からも日獣からの参加要請人数を上回る40名以上の先生方にご参加いただきました。世界的にも著名な先生方のご講演等を拝聴することができ、出席された先生方からは大変有意義であったというご意見を多数いただきました。全体の参加登録者数1,893名、参加者数は約2,500名だったということで、大成功だったと評価させていただいたところです。中でも福岡県は全国でも初めてとなるワンヘルス推進基本条例を制定され、行政、議会、教育機関、県民の皆様等が一体となってこの取り組みを進めておられることに強く胸を打たれました。この度FAVAの会長に就任された藏内勇夫会長は、ワンヘルスへの取り組みをご自身のライフワークにしたいと表明されており、FAVAワンヘルス福岡事務所等を中心に今後も様々な取り組みがさらに広まっていくことをご期待申し上げます。

さて、愛玩動物看護師法が令和4年5月1日から施行され、11月6日には、広島県、福岡県等7都道府県13試験会場において第1回愛玩動物看護師国家試験予備試験が実施されたところですが、受験者が9,841名、合格率99.5%であったということです。本年2月19日には第1回愛玩動物国家試験が実施されることになっており、新しい愛玩動物看護師の誕生、チーム獣医療としての対応に向けて着々と準備が進んでいると感じています。

改正動物愛護管理法における販売用犬猫に対するマイクロチップ装着・登録の義務化に係る件については、日獣が唯一の法定指定登録機関となったものの、開始後約5か月(6月1日～10月31日)の運用状況は登録頭数46万頭弱、新規登録のうち移行登録以外の頭数は30万頭強であり、このままでは運営上大幅な赤字が予想されています。地方獣医師会、構成会員等が検索できないなど問題点が山積していますが、現在、所管の環境省等と鋭意協議が進められており、少しでも改善されるよう期待しているところです。

産業動物分野では、昨年10月末に岡山県で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認されて以来、2020-2021年シーズンを上回るペースで、全国で発生が見られ、野鳥においても全国的に本病ウイルスの検出が続いており、予断を許さない状況となっています。CSF(豚熱)についても、ワクチン接種や飼養衛生管理の向上等、関係各位の懸命な努力が続けられているものの、なかなか終息までには至らず、さらにはグローバル化が進んでいる現在、口蹄疫やASF(アフリカ豚熱)など越境性感染症の侵入も危惧されます。それらの防疫に気が抜けない家畜衛生分野の先生方の激務、ご心痛・ご労苦に思いを馳せ、ご自身の体調管理に万全を期していただくようお願い申し上げます。小動物、獣医公衆衛生分野では、相変わらずSFTSの発生が見られ、狂犬病とともに普及啓発にさらに取り組む必要があると痛感しています。新型コロナをはじめサル痘、エゾウイルスによる疾病等、新興、再興感染症の動向に引き続き注意を払っていかなければならないことは言うまでもありません。

本会が事業の柱として取り組んでいるOne Healthの推進、マイクロチップ装着の普及推進、災害時における動物救護対策等の事業は今後も継続してまいります。昨年は萩市で行政関与による災害発生時の犬の同行避難訓練が開催されました。県との協定等、災害時対応に係る動きがようやく本格化し始めました。獣医師会館の建設問題も、本年中には具体的な検討結果を皆様にお示ししたいと考えているところです。会員諸氏をはじめ、関係各位の尚一層のご協力・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

山口大学共同獣医学部 学部長 度会 雅久

山口県獣医師会の皆様、新年明けましておめでとうございます。令和5年度を迎えるにあたり、昨年のご報告と今年の抱負を述べさせていただきます。

コロナ感染は一時的に減少傾向にありましたが、すぐに第7波および第8波が到来し、感染が拡大している状況です。本学においても、一定数の感染者が発生しております。基本的な感染対策を徹底し、滞りなく教育研究を行なっております。教育研究に直接関係しない行事や課外活動は、ほとんど中止になっていましたが、昨年は感染予防に留意し、実施可能となりました。まだ飲食を伴う交流会などは開催できておりませんが、今年は実施できるのではないかと期待しております。

共同獣医学部では、2019年に欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)認証を取得し、その後も教育の質向上を目指した改革を継続的に進めています。昨年はEAEVE認証の中間報告を提出しました。2025年に受審予定の次回審査に向けて、準備を開始したところです。

国際交流も本格的に復活してきています。2021年から大学の世界展開力強化事業「アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣

医師育成プログラム」が開始され、昨年はナイロビ大学との本格的な交流が行われています。ナイロビ大学の教員と学生の受け入れが10名程度、および本学部の教員、学生、大学院生の派遣が15名程度の規模です。今年も引き続き交流活動を行う予定です。アフリカの現状に興味を持つ学生が増えることを期待しております。また、JICA草の根事業「ジョグジャカルタにおける農業従事者の生活向上のための牛繁殖効率の改善」ではインドネシアとのオンラインセミナーが月1回のペースで開催されています。ガジャマダ大学の研究者との相互交流も開始されました。今年はインドネシアで開催されるシンポジウムに複数の学生と教員が参加し、学術交流を進展させる予定です。今後さらに国際的ネットワークの構築を進めます。

山口県獣医師会をはじめ学外諸機関の皆様には、今後も様々な場面で連携をお願いすることになりますが、引き続きご協力とご指導を賜れば幸いです。

終わりに、会員の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。本年も宜しく願い申し上げます。



## 新年の御挨拶

山口県農林水産部 畜産振興課長 小川 賀雄

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、平素から畜産の振興に格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年10月28日に岡山県や北海道の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが確認されて以降、過去最多の発生となった令和2年度を上回るペースで感染が拡大しています。

このため、国の家きん疾病小委員会は、「今シーズンの高病原性鳥インフルエンザについては、韓国等の海外での発生状況や、これまでの我が国での家きん等での発生状況を踏まえ、関係者においては、全国的に過去に類を見ない程に本病の感染リスクが高い状況にあることを認識し、引き続き、飼養衛生管理を徹底し、最大限の警戒感をもって対応すべきである」と緊急提言を行っています。

県では、10月の発生を受け、養鶏場への緊急立入を行い、飼養衛生管理基準の遵守や早期発見・早期通報

を徹底するなど農場への指導を実施したところです。

また、昨年3月に県内の野生いのししで豚熱の感染が確認されたことを受け、飼養豚等へのワクチン接種や野生いのししへの経口ワクチン散布等の感染拡大防止対策を実施しております。

この他、アフリカ豚熱については国内での発生はないものの、東アジア地域では続発しており、予断を許さない状況が続いております。

今後も気を緩めることなく、生産者や関係機関、行政が一体となって家畜防疫対策に取り組んでいくことが、大変重要と考えておりますので、高い見識と技術を有する会員の皆様の御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、山口県獣医師会の今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍を祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。



## 新年の御挨拶

山口県環境生活部生活衛生課長 櫻井 晋次郎

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、新年を健やかに迎えの心よりお慶び申し上げます。

新年を迎えるに当たり、当課の動物愛護管理に係る主な業務を紹介し、御挨拶とさせていただきます。

昨今のデジタル化の急速な進展等、コロナ禍を契機とした社会変革に対応するため、当課では、新たにインターネットを活用した2つの取組を進めています。

1つ目は、動物愛護団体が保護している犬猫の譲渡を促進するため、イベント会場と団体をテレビ電話でつなぐ「オンラインお披露目会」です。

昨年9月に県動物愛護センターで開催した「動物愛護フェスタ」では、県内の動物愛護団体2団体が参加され、各団体から多くの「推し犬猫(メン)」が紹介されました。

飼主候補の方にとっては、譲渡会で「ご本犬猫(にん)」に会えるのが一番良いですが、オンラインお披露目会では、普段の飼育環境のまま紹介でき、譲渡会と比べ、犬猫にとっても団体にとっても負担が軽減されるため、団体の行う譲渡会に誘導するための手法として有効であると思います。

2つ目は、eラーニングによる譲渡前講習会です。県動物愛護センターでは、定期的に犬猫譲渡会を開催しており、譲受けを希望される方には、譲渡に先立って、講習会を受講していただいています。

こうした中、コロナ禍により集合形式の譲渡会や講習会の開催が困難となったことから、eラーニングシステムを導入し、譲渡前講習会を自宅でも受講できるよ

うにしたものです。

昨年11月からシステムの運用を開始し、1か月で10名が受講されました。今後、このeラーニングシステムを地域猫の普及啓発など、様々な普及啓発に活用していきたいと考えています。

また、御案内のとおり、貴会との連携により、災害時における被災動物の救護体制の整備を進めているところであり、昨年8月には、貴会及び萩市と共催で、ペットとの同行避難訓練を実施しました。

今回の訓練では、真夏の開催ということもあり、避難場所における室温等の管理の難しさを実感するとともに、ペットの避難場所について、風雨が凌げるだけではなく、設置場所や必要な対策等について、季節等の条件に応じた十分な検討が必要であるという課題が共有できました。

災害対策に関しては、昨年、「山口県地域防災計画」における「動物愛護管理計画」を改定したところであり、引き続き、具体的な体制の整備等を進めていくこととしています。被災動物の救護に当たっては、関係機関の連携と協働が不可欠であることから、貴会とも連携を図りながら、検討を進めてまいりたいと考えていますので、今後とも、御理解と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、公益社団法人山口県獣医師会のますますの御発展と、皆様の御健勝、御多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

## 謹んで新年のご祝詞を申し上げます

旧年中の御厚誼を深く感謝いたしますと共に本年も何卒よろしく御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年(2023年)

### 理事

会長理事 田中 尚秋  
副会長理事 白永 伸行  
常務理事 酒井 理  
理事 石井 俊昭  
大石 大樹  
河上 茂  
後藤 孝一  
佐伯 優紀 恵  
高橋 学  
中村 滋  
新田 直正  
松延 佐知子  
脇本 雄樹

### 監事

白銀 政利  
水原 孝之  
柳澤 郁成

### 支部長

岩 柳 奥原 達朗  
熊 毛 河村 和俊  
徳 山 橋本 介志  
防 府 中野 正司  
山 口 藤原 宣義  
美 祢 吉村 正道  
宇部厚狭 網本 昭輝  
長 北 大田 悦三  
豊 浦 水藤 創  
下 関 山中 俊樹  
県 庁 西藤 裕一郎  
山口大学 高木 光博

### 部会長

産業動物部会 大石 大樹  
小動物部会 大黒屋 勉  
獣医公衆衛生部会 殿河内英雄

### 会報編集委員

古澤 剛 笠井 亨浩  
菅原 淳也 石村 麻莉乃  
三谷 藍 原田 秀明  
豊川 剛 前田 翔一  
鹿島 貴朗 上林 聡之  
鶴田 祐哉 酒井 理  
羽迫 広人

## 年男・年女の抱負



### 新春を迎え好運を希む “三陽希景運”

山口支部 山 野 洋 一

皆さん良きお正月をお迎えでしょうか。明るいニュースが少ない中で良き年になることを願っています。

新年早々に7度目の年男になりますが、まずは平素の御無音を心よりお詫び申し上げます。私事ながらこれからの第3の人生を指向するも昨春、体調の異変に気づき1.5か月間の思わぬ入院生活により体力の低下と足・腰の衰えは免れ得ず併せてボケ封じが大きな課題となってきました。退院後は自宅を囲む生垣・庭木の剪定と有機栽培指向の家庭菜園・花壇の維持等の力仕事がかかりの負担を覚えるようになり転倒しないよう気をつかう今日この頃です。

ところで、生あるが故の心の糧として昨秋11月8日夕には442年振りとされる皆既月食と天王星食(惑星食)の宇宙ショーを庭先にてワイフ共々楽しませて貰いましたが、本年もこれにまさる魅了すべき事象等に恵まれると良いのですか。

今や地球規模の環境負荷や数々の不穏・不安定事項が続発する世相に加え、極卑近な問題として長期化するコロナ禍が社会経済活動の優先と感染対策との両立策を思うに「二兎追うものは一兎を得ず」してこのことを憂慮してやまない。



### 感謝の気持ちで！！

山口支部 岩 崎 明

新年あけましておめでとうございます。

7回目(84歳)の年男となりました。

平成12年に山口県を退職し、第2就職は週3日制を選んで、田舎(生家)の耕地管理をしていたが、中山間地の農作業は意外と効率が悪く重労働のため、地区の皆さんに声かけし、ほ場整備を市へ要望した。当初は5～10年で完成予定であったが、国の財政悪化・東北地方の大震災・県北部の大水害等様々な事情により大幅に遅れ、ようやく平成26年度に着工、令和4年度末に完成見込みとなった。ほ場整備のお陰で、若い世代や女性を含め機械による作業等も一層効率化された。昨今の世界情勢からも食料自給率の向上・整備された農地管理のためにも、老体にも一頑張りしてもらいたいところです。と言っても、病院通いもある昨今、医術や多くの皆様のお陰で生かされている命です。これからは健康管理を第一に「感謝の気持ち」・「自然体」で生きたいものです。

終わりに、本会の益々の発展と会員各位のご健康とご活躍を心から祈念します。



### 6回目の年男の現状

山口支部 藤 井 満 貴

獣医師会から新年号への投稿依頼が来て、改めて自分が72歳の老人だと自覚した。

還暦時に自分が会報に書いた文面を見直すと「水泳クラブで頑張って、ピンピンコロリを目指したい」などと、当時は特に健康不安は無かったらしい。ところが還暦後に関節リウマチを発症、股関節や肩関節の激痛で歩行困難、水泳どころではなくなった。ついに人工股関節置換手術と、抗リウマチ薬治療の結果、日常生活は可能な程に回復したので、また水泳に復帰したいと思っている。

最近になって、人類の起源や古代日本に興味を持ち、魏志倭人伝など文献を読み漁るうちに、「邪馬台国北部九州説」を確信、女王卑弥呼の墓と思われる糸島の平原古墳を見に行ったりした。また県内の古墳を巡ってみると、国内では珍しい女性の「王」を埋葬した古墳が2カ所あり、古代への興味は尽きない。

子供3人と孫5人に恵まれ、これまで支えてくれた妻には感謝しているが、妻に人類の起源や邪馬台国について講釈するたびに露骨に嫌がられている。

おわりになりましたが、本年も会員諸氏のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。



## 謹賀新年

防府支部 岸本彦生  
(桑の山獣医科)

70年安保、大阪万博の年、高校卒業。不登校に続き京阪神放浪開始、広島、山口、岡山。やっ  
と生まれ育った田舎町に診療所開設、定住。年男とは云い今さら抱負は無く、家出、浪人、留年、  
節目の無い渡世を回顧し、かと云い良かれと思う選択も無かった。以前寺の住職曰く「仏教は弁証法よ。」終わりの無  
い話、何を言うちよるか判らんこともあってよいのでは？ 学校の成績、金銭は極めて判り易いものの、私には全く  
苦手無縁であった様です。「18才は自分を探し、81才は探される。」そろそろ放浪期から徘徊期に移りつつあり、75才  
の免許更新に不安を感じ、「今のうち」と意識的に3～4泊の徘徊を楽しみ始めました。今後、晴耕雨読、雑魚釣り程  
度の小欲は持ち続け・・・。「始めるのは易しいがやめ時は難しい。」を実感している年男です。

コロナ、ウクライナ、行き過ぎた資本主義等々、世界的懸案が解決し良き節目となり、山口県獣医師会員の皆様にも御多幸であります様に願います。世の中安穏たれ。



## 私のパーキンソン病

長北支部 中村博行

あけまして おめでとうございます

会員の皆様には、本年の御健康と御多幸をお祈りいたします。

原稿の依頼を受け、少々驚いています。私の臨床獣医師の人生は、定年退職と共に終わったと思っており、その後は農作業と闘病生活が続いていました。

パーキンソン病で気力は衰え、手足は運動が不自由となり、動作緩慢な為、何をするにしても普通の人の3倍以上の時間が必要でした。近年、この病気の研究が進み、治癒する可能性が高くなってきていると云われている。その日を楽しみに、農作業に励み、体力を保ち、趣味を楽しみ、社会との繋がりを保ちながら孫の成長を見守ってゆきたい。

パーキンソン病は難病の一つではあるが直接死に至る病気ではありません。対処療法にて症状を緩和する事と生きる気力を充実することが大切と考えているので、今後も御指導をお願い致します。

## 年男の抱負

宇部厚狭支部 石田哲也  
(インダ動物病院)

新年明けましておめでとうございます。投稿依頼を頂き、還暦の年男だと気づきました。「年男」について、ほとんど知りませんので調べると、年末年始の家の仕事も年男の役割のようです。大掃除、正月の飾り付け、おせち料理の準備、節分の豆まきまで、これらすべてを取り仕切るのが年男の仕事だそうです。こ、これは妻には知られないようにしなければ。また還暦の年男は厄年だそうです。そのため厄祓いをされる方もおられるようです。私はしませんが。アメリカでは、還暦は60歳の長寿祝いの日としてダイヤモンド記念日と呼び、ダイヤモンドがプレゼントされるそうです。これは子供たちにLINEしておかねば。赤いちゃんちゃんこはご勘弁です。



本題の、私の「年男の抱負」は、趣味(微化石関連、写真)が少しでも多くできますように、になります。人生もかなり後半ですが、仕事以外にやりたいことがまだ沢山あります。仕事であまり辛抱我慢はしたくありません。干支であるウサギの保定のように、押さえつけられて、嫌ってなると、暴れて心が折れてしまうかもしれません。とは言っても皆様にご迷惑をお掛けしない程度には仕事を頑張ります。よろしく願いいたします。



## 年 男 の 抱 負

美祿支部 池 辺 祐 介  
(秋吉台自然動物公園)

新年あけましておめでとうございます。

秋吉台サファリランドに就職してはや33年。おかげさまで。感謝です。というのも、私が就職した当時は、まだ会社の労働環境が不安定で、先輩の獣医師の方々は次々と転職されていたのです。会合に出席するたびに、まだまだ頑張れと励まされ、やがて継続記録更新かと酒のつまみになり、いつの間にかベテランの域に。この折に、支えてくださった皆様にあらためて感謝いたします。

サファリランドのほうも、おかげさまで開園45周年を迎えることができました。開園時の大盛況から一転、今般のコロナ禍も含め厳しい時期もありましたが、現在はまずまず堅調に経営させていただいています。私企業ですので目先の利益に執着することは当然なのですが、地球の財産ともいわれる動物園動物を扱う者として公益的な、今でいうSDGs的なことにも思いを致したことが苦境を救ってくれたような気がします。現同僚・退職した獣医師の正しくありたい理想の力のおかげです。各々が獣医師を目指したときの思いの丈の大きさともいえます。今年もこれからも初心を思い出しながら青臭くやっついこうと思います。



## 年 女 の 抱 負

豊浦支部 引 田 久 美 子  
(農林総合技術センター畜産技術部)

獣医師会の皆様、新年、明けましておめでとうございます。

気づけば、息子は高校生となり、早いもので、4度目の年女を迎えることになりました。

現在、農林総合技術センター畜産技術部育成業務課で、乳牛雌子牛を酪農家からお預かりして、育成する仕事に携わって4年目になります。子牛達の可愛さに癒される事も多いのですが、病気や死亡事故などの事件が起こり、心が折れそうになる時もあります。

2022年は、ロシアのウクライナ侵攻に始まり、飼料等物価の高騰、酪農家の経営危機、預託牛の減少と育成業務課にとっても、大変厳しい年でした。預託頭数と足りない予算と、にらめっこばかりしていたような気がします。近隣の、そして全国の酪農家の厳しい状況を聞く度に、日本の酪農・畜産はこれからどうなるのだろうか・・・と不安になります。

2023年は卯年、この暗い雰囲気から飛躍して抜け出し、良い年となることを願います。



## 新 年 の 抱 負

山口支部 児 玉 順 子  
(柴の家動物診療所)

新年あけましておめでとうございます。柴の家診療所の児玉です。

生まれた年を除けば4回目の自分の干支が回ってきました。卯年であることから昔からウサギのモチーフを好んで使っていたように思います。近年ではスマホのスタンプはウサギを多用しています。ウサギはモチーフとして秀逸で、チラッと撫でるには抜群に可愛い動物ですが、実際に飼育するとなると色々気を遣う動物であることがわかります。データによるとメディアの影響もあり卯年にはウサギの飼育頭数が上昇するそうです。がしかし新規でウサギをお迎えする場合はよくよく熟慮の上で飼育を開始して欲しいなと思います。

昨年度より下関市の東亜大学で獣医看護学コースの教官として勤務しており、私的、本年最初の課題は2月に行われる第一回愛玩動物看護師国家試験に学生が合格してくれるのか、ということになります。この国家試験においては愛玩動物のカテゴリーに犬と猫と愛玩鳥が含まれていますが、他の動物は看護対象ではないそうです。私としては飼育されている方がいらっしゃる以上は、ウサギなどのエキゾチック動物が看護対象動物に仲間入りしてくれる未来を密かに望んでいます。



## ジ ム 通 い

岩柳支部 大黒屋 有 美  
(みさお動物病院)

新年あけましておめでとうございます。

40歳を過ぎて顕著に体力の衰えを感じるようになりました。そこで2年前から、約週1回のペースでパーソナルジムに通っています。今まで体力づくりをしようと思いたっては市民講座のバレエやベリーダンス、スポーツジムでスイミングなど、いろいろ試してきましたがどれも半年と続きませんでした。

やはりお金をしっかり払い、しかも決まった時間にトレーナーが待っているというプレッシャーが継続につながっているのだと思います。

週一回のジムで筋肉質の体を手に入れられると思ってはいなかったのですが、始めたころと半年たったころに体組成計で体重・体脂肪・筋肉量を計測したときに、全く数値が変化しなかったもので、さすがにこれはパーソナルジムの無駄遣いをしていると思い、週2回スポーツジムでのマシントレーニングを開始しました。

今は両方のジムに「元は取れなくても、損はしない程度」に通えていると思うのですが、なんとなく体組成計にはのれてはいません。



## 年 男 の 抱 負

山大支部 櫻 井 優  
(山口大学共同獣医学部)

干支がうさぎで抱負を問われれば「うさぎのように跳びはねる一年にしたい」とう答えるのが無難なように思われる。だが、ウサギであればなんでも跳びはねるというわけでもないだろう。高く飛ぶには安定した足場が必要だ。ウサギ単独で「跳びはねる」ことはできない。改めて自分の周りを見渡すと、なんだか泥沼に嵌っているような印象がある。広い意味では日本全体がぬかるみに足をとられているような気がする。これでは跳びはねることはできない。

沼地のうさぎは如何に生きるべきか？自然界に答えを求めようと調べてみたが、やはりというか、ウサギは草原や森林に生息するものがほとんどだ。強いていうならば、雪原に生息する種に近い趣があるだろうか。本邦では、北海道のエゾキウサギが該当する。このウサギはかんじきのように発達した大きな後足を持ち、雪上で素早く走り回ることを最大の特徴とする。また、巣を造らないためか非常に警戒心が強い。学名の*Lepus timidus* (臆病なうさぎ)にもその性格がみてとれる。なるほど、ウサギには警戒心を象徴する耳がある。立派な後足は元来捕食者から逃げるためのものだ。今年はしっかりアンテナを張り、危機から逃げ延びる一年としたい。



## 年 男 の 抱 負

下関支部 渡 邊 勉  
(林兼産業(株)家畜魚類診療所)

まずは皆様、初めまして。2022年から山口県獣医師会へ入会いたしました、渡邊勉と申します。4月に下関市にある林兼産業株式会社へ入社し、家畜魚類診療所で勤務しております。

昨年まで隣県島根の家畜病性鑑定室にてウイルス検査担当をしておりましたので、私のことをご存知の方もいらっしゃるかもしれません。改めて、よろしく願いいたします。

生まれ育ちは愛知県、その後は帯広畜産大学へ進学し、島根県で9年間勤め、今年で36歳の年男です。縁もゆかりもない山口県でしたが、釣り好きが講じて養殖魚獣医師の道へ進もうと志し心機一転、下関市へやって参りました。

今年の抱負はもちろん「養殖および魚病への知識を深め、現場で活躍できるように努める」です。魚病は国家試験の一分野ほどとして学んだだけで、右も左も分からない中で新たな分野に飛び込んだため、まだまだ学ばなければならないことだらけです。また、学ぶだけではなく、実際の現場で漁業者の方々のお助けになれば意味がありません。幸いなことに、弊社診療所には獣医師である如何に関わらず、豊富な知識や経験をお持ちの上司・諸先輩方がいてくださるので、ご助力を頂きながら日々向上していく所存です。



## 年 男 の 抱 負

美祢支部 二 川 雄 一  
(農林総合技術センター畜産技術部)

年男は干支を連想する言葉です。私は卯年生まれですが亥年にまつわる豚や猪の人形などのグッズを集めることにはまっています。私が山口県に就職し、新人として配属された所は山口県の畜産試験場の豚舎でした。以来7年近く私は豚たちと接し続けていました。私は2019年まではあまり干支について意識しませんでした。しかし2019年の年始の岐阜県知事の挨拶で、岐阜県の豚熱の問題について、「イノシシ問題で悩んでいるのに亥年で皮肉」と話した記事に私は接し、2019年は亥年だと意識するようになりました。そして2019年11月に、畜産試験場で豚の飼養は行われなくなりました。

現在では畜産試験場に豚はいませんが、私の思い出の中に豚たちは生き続けています。その時から干支について意識し始め、亥年にまつわる豚や猪の人形などを集め始めました。気づけば2019年の12年前の2007年、私が山口大学の獣医学科に入学した年も亥年でした。

2007年は日本がOIEに対し当時の言葉である豚コレラの清浄化を宣言した年です。私の第二の生まれ年は亥年です。豚たちの人形などを見つめ、豚たちの思い出を思い返し、今日も精一杯頑張るようにしています。



## 「獣医師は生涯勉強だぞ」

長北支部 佐 野 裕 規  
(長門農林水産事務所畜産部)

新春の候、お慶び申し上げます。

このあいだ防府にて出生したような気もするが、月日の流れるのは早いもので、三度目の年男を迎える。そして小生が獣医師となって10年が経過しようとしている。もともと学童期の将来の夢は「動物園の飼育員」だったのだが、家で大型犬を飼うことでそれが「動物のお医者さん」に変わり、大学在籍時に所属した人獣共通感染症学研究室で研究を続けていくうちに、予防衛生の最前線である行政を選択するに至る。学童期には公務員になるとは微塵も思ってもみなかったので、人生とはわからぬものだなと思う。

タイトルは講義の合間に教授が言った言葉である。当時はわかった気になっていたが、実際に獣医師になってみればその実行の難しさたるや。自分で興味を持ち、進路選択に至った予防衛生系分野だが、技術や知見の進歩はめざましく、気を抜けば手持ちの知見はすぐに周回遅れになる。同じ行政に身を置き、壮大なライフワークを掲げ、研究の最前線を邁進する同業者を見ると自分の心構えの微温さを思い知るばかりである。

抱負というほどの事もないが教授の言葉の実践が次の12年の課題だろう。

カシオミニを賭けてもいい。





## 令和4年度獣医公衆衛生講習会開催報告

獣医公衆衛生部会長 県庁支部 殿河内 英 雄  
(山口県生活衛生課)

令和4年12月12日(日)、山口市の防長苑で令和4年度獣医公衆衛生講習会が開催されました。今年度は、「ヒトとイヌのつながり」という演題で麻布大学獣医学部介在動物研究室の菊水健史教授にご講演をいただきました。

獣医公衆衛生講習会は、例年、市民公開講座として実施することとしており、当日は、会員の先生方の他、一般住民や動物愛護団体の方を含む、70名の出席がありました。

講師の菊水先生は、東京大学卒業後、製薬会社研究員や東京大学講師を経て、現職に就かれており、動物行動学、行動神経科学、比較認知科学、神経内分泌学を専門分野とされています。

講義の前半では、ヒトと最も長く共生しているイヌが獲得したコミュニケーション能力についてお話されました。

イヌは、ヒトの視線の追跡ができ、ヒトの指さしの意味の理解できるという特有の能力をもっていること、また、ヒトとイヌが互いを見つめるというアタッチメント(愛着)行動により、それぞれのオキシトシン分泌が促進されるというポジティブループがあることについて、実験データを交えて説明されました。さらにイヌは飼主を見つめることにより、自分ができないことに対する支援を飼主に求めるのだそうです。

このような特性は、起源が同じであるオオカミに

は見られず、ヒトとイヌの間の特徴的な関係であるそうです。

後半は、日本人の動物観について説明されました。

欧米では、動物がヒトの従属物であり、ヒトが管理する責任を有するものと認識されているのに対し、日本では、動物は生命的にヒトと平等であるという理念が根底にあり、これが欧米にはない「動物愛護」という考え方につながっているとのことでした。

最後に、犬を飼育している思春期児童は、Well-being(幸福、満足度)が高くなる一方、猫を飼育しているとWell-beingが低くなるという海外の研究結果を紹介され、この説明に対して、(猫派の?)参加者から質問がありました。飼主のWell-beingは、IL-6により評価しているため、猫の飼育によるWell-beingの低下が、猫からの感染症によるものではないかと調べたものの、原因は不明であったそうです。

ペットを飼う人は誰も、動物のキモチを理解したいと思うものの、言葉の通じない動物の心の内は外形的な仕草で想像するしかないのですが、講習会では、イヌとヒトの関係性について、科学的データに基づき分かりやすく説明され、ヒトとイヌの絆が単なる想像でなかったことが理解できました。

参加者からも「イヌもヒトと同じ感情を持っていることが実験結果により分かって安心した。」との感想が寄せられ、市民公開講座としても非常に有意義なものとなりました。



講演される菊水先生



質問される白銀先生(山口支部)



謝辞を述べる殿河内先生



会場の様子(2箇所からスライドを映写)

## 令和4年度第2回小動物部会委員会開催のご報告

小動物部会長 岩柳支部 大黒屋 勉

(みさお動物病院)

2022年12月8日(木)に山口県獣医師会館において開催されました、令和4年度第2回小動物部会委員会についてご報告させていただきます。

当日は12名中9名の各支部小動物部会委員の先生方にご出席頂きました。本部会委員会では、①「令和4年度狂犬病予防注射実績について」②「令和5年度狂犬病予防注射(集合注射)の市町協定について」③「指定獣医師の新規指定および解除について」④「狂犬病予防に係わる啓発ポスター・チラシについて」⑤「令和4年度小動物講習会について」⑥「狂犬病予防注射補助者について」の各議題について協議が行われました。

県内の集合注射頭数は年々減少傾向にありますが、個別注射頭数はここ10年来多少の増減はあるもののほぼ横ばいの状態です。このことは、「集合から個別への移動」と言うだけでは片付けられない現状を示しています。犬の飼育頭数が減少していると考えられる昨今、全体頭数の減少はやむを得ないこととは言え、接種率の維持向上には飼主様へのより一層の

周知と啓発が重要であると再認識した次第です。来年度はポスターのサイズをA3からA2に拡大し、各動物病院、市町、県関係機関に加え、図書館やペットショップへも配布することが決定しました。

また本会議では各支部の先生方の新規指定(6名)および指定解除(3名)が承認されました。僭越ではございますが、長年にわたり集合注射にご尽力頂きました先生方に部会を代表して心より感謝申し上げます。

加えて、令和4年度の小動物講習会につきましては第1回が皮膚科、第2回が泌尿器科でいずれも臨床で活躍されている講師の先生をお招きして、対面で開催することが決まりました。基礎から応用まで幅広い講義内容となる予定ですので、ふるってご参加頂きたいと存じます。開催日時等の詳細につきましては事務局様からのアナウンスをご確認下さい。

会員の皆様におかれましては今後とも小動物部会の活動にご意見を賜り、部会の運営にご協力頂きます様、重ねて宜しくお願い申し上げます。

## リレー随筆

### 『積読』

山口支部 児玉 順子

(柴の家診療所)

私にはいくつかの趣味がありますが、大きな声で言えるものと、あまり大きな声では言いたくないものが存在します。このリレー随筆はたくさんの獣医師会会員の先生方をご覧になれる場所なので、もちろん大きな声で言える方をご紹介しますと思います。

昔からずっと変わらない趣味のひとつに読書があります。幼いころから本はいつも身近な存在でした。小学生の頃は時々父親が連れて行ってくれる大きな本屋さんが大好きで、夕食が早く終わった日などに父親から本屋さんに行こうかと言われるととてもわくわくした気持ちになりました。そして一緒に本屋さんに行くといつも1冊、本を買って来ていました。今でも本屋さんの紙とインクのおいさ、独特の乾いた空気を感じるとふとあの頃を思い出してノスタルジックな気持ちになります。

高校生の頃などは純文学を読み漁り、その頃全国に広がりつつあったブックオフのお陰もあり読書は手軽な趣味として継続していました。結婚してからもちょくちょくと本を買い、特に妊娠中のつわりの時期はテレビを見ると食べ物が出てくるので見ることもままならず、ひたすらに食べ物のほとんど登場しない歴史小説を読んでいたように思います。最近は電子書籍も購入しますが、気に入ると結局は紙の本が欲しくなるのでどうしても家に本が増えていきます。

しかしながら、ここ数年はお陰様で仕事が忙しくなり読書をする時間がなかなか持たず読みたくて買ったけれども読めずに放置してある本がどんどん増え

ています。そんな購入したけれど読んでいない本のことを「積読」(つんどく)というそうです。これは「積んで置く」と、「積んで読書する」の二つの意味をかけた造語だそうでネットなどで時々目にするようになりました。

私もここ数年は積読が積もる一方でなかなか溶けていってくれません。

積みすぎて雪崩が起こる事もしばしばです。無理して夜更かしなどすると次の日は確実に使い物にならなくなる年齢になってしまったし、特に夕方以降は小さい活字を読むのがつらい事も。

でもこれからも寄る年波に抗いながら読書を続けていきたいと思います。日常生活でままならないことがあっても本のなかは自由です。活字の世界に入っていくと同じ悩みを抱えた人物に出会えるし、全く新しい世界にも出会うことが出来るのです。こんなにコスパな趣味はほかに見当たらないと常々思っているのですが、同感してくださる方がいらっしゃいましたらお互いの積読について話ができれば嬉しいです。

次は大学生の頃から長年に渡り大変お世話になっており、退官されてからもバリバリと仕事をこなしていらっしゃる山口大学名誉教授の田浦保穂先生にバトンをお渡ししたいと思います。



## 肩と向き合う数ヶ月

熊毛支部 菅原 淳也

(菅原獣医科医院)

どこを向いても「値上げ、値上げ、値上げ！」です。あまりに急激かつ広範囲なので、身の回りのあらゆる「モノ」の価格設定が再構築され始めているような印象さえ持ちます。モノの値段に対する自分の感覚をリセットして適正な価格を見極める様にしていかないと、世の中の流れに取り残されてしまうのではないかと、不安な思いに駆られています。

急に上がる物価には困ったものですが、私はここ数ヶ月、全く上がらない腕に困っています。話には聞いたことのある「四十肩（五十肩）」だそうです。四十肩→腕上がらない→そのうち治る、くらいの認識しかありませんでしたが、実際経験してみるとなかなか大変なものですよ、これは。腕が前方に上がらない（屈曲）事も含めて、肩関節が全方向（屈曲／伸展、内旋／外旋、外転、水平外転）に動かなくなります（凍結肩：frozen shoulder）。動かなくなるだけならまだしも、可動域を超えて動かそうとするとかなりの痛みを伴い、着替えや洗髪など非常に苦労しています。さらに、熱いものに触れたりして反射的に避けるような動作が生じた時には、もう本当に「こんな痛い事ってある?!」くらいの激痛で、しばらく立ち上がれなくなるほどです。四十肩で？こんなに痛いの？他に何か重大な疾患があるのでは？とも思いますが、エコー検査やMRI撮影まで受けた上での診断なので、やはりこれしかないようです。

あまりにもぼんやりした病名なので、実際何が起きているのかを調べてみると、最重度の最も典型的な四十肩は「癒着性肩関節包炎」と呼ばれるそうです。こちらのほうが症状の強さをより正確に反映しているなど実感します。その他、広義の四十肩としては「肩関節周囲炎」「腱板炎」「上腕二頭筋長頭腱炎」「腱板疎部炎」等があるようですが、これらは全方向性の可動域制限が生じることはなく、四十肩と診断するかどうかは医師によって様々だそうです。

ここで連想されるのがやはり犬猫でこういった病態があるのかどうか？こんな激痛と可動域制限を伴って、画像検査で異常を認めず、何ヶ月も症状が続く、なんていうことがあるのならちょっと恐ろしいなあとさえ思ってしまう（転院を招く落とし

穴）が、個人的にはこういう事態に遭遇した記憶はありませんし、成書にも見当たりません。やはり、極めて広い肩の可動域をもつヒト特有の病態らしく、必要とされる肩関節の可動域が人間よりもはるかに狭い四足歩行の動物では生じにくい病態のようです。

私の場合、発症以前から生じていた関節唇損傷がトリガーとなった可能性があるようですが、根本的な原因ははっきりしていないようです。そんなわけで、何に注意しておけば避けられるのかも不明なため、大した注意喚起にもならないのですが、せめて周囲に発症した方がいらっしゃる場合、できるだけ優しく接してあげて欲しいとお願い申し上げます。

《参考資料》

Youtubeチャンネル「すごいエビデンス治療 / 整形外科医 歌島大輔」



エコー：棘上筋と棘下筋



MRI：関節唇

## 新入会員紹介

### はじめまして



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会させていただきました小森大幹です。今年の4月から新規採用で

農林総合技術センター畜産技術部に配属されました。山口県の種雄牛を担当しており、毎週水曜日に種雄牛の精液採取を行っています。山口県を代表する種雄牛を取り扱うということで、一年目にして重要な仕事を任せられておりますが、職場の頼りがいのある先輩方に助けられながらなんとか頑張っております。

私は北里大学獣医学部出身で衛生学研究室に所属していました。仔馬に感染するロドコッカスエクイという細菌について研究していました。そのため、大

美祢支部 小 森 大 幹  
(農林総合技術センター畜産技術部)

学では牛と接する機会があまりなく、牛の採精や採血など、日々勉強の毎日を過ごしています。

学生時代に公務員実習に参加し、農業獣医師、衛生獣医師の両方の業務を勉強させていただきました。公務員獣医師の業務はとても幅広く、家畜から食品衛生系など様々なことを担当していることに大変驚きました。

4月から山口県公務員の一員として働き、業務を通して学生の観点からは考えられていなかったことが多々あり、新鮮な日々を過ごしています。まだまだ分からないことが多いため、迷惑をおかけすると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

## お知らせ

### 令和5年1月の主な行事

- 1月14日 ・中国地区獣医公衆衛生講習会（広島市・オンライン）
- 1月15日 ・第1回小動物部会講習会（防長苑）
- 1月26日 ・総務委員会(県獣会館)

## 事務局だより

- 12月1日 ・県獣医師会館検討会議（県獣会館）
- 12月8日 ・小動物部会委員会(県獣会館)
- 12月11日 ・市民公開講座（獣医公衆衛生講習会）(防長苑)

- 12月15日 ・日本獣医師会理事会（東京）
- 12月20日 ・会報編集委員会（県獣会館）
- 12月8日、22日 事業推進会議

次回編集委員会 1月24日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第740号 令和5年1月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷